



北海道有朋高等学校と高大連携に関する協定の調印式。村田校長(右)と新川学長(左) [関連記事7ページ]

大学基準協会による 「大学基準適合認定」を受けて



学長 新川 詔夫

本学は昨年、(財)大学基準協会による大学評価(認証評価)を受け、大学基準に適合していると認定され、2011年4月1日付で無事「大学基準適合認定証」および「認定マーク」が付与されました。本学の教育研究上の質が保証されたわけで、まずは一安心です。

2002年の学校教育法の改正で、大学は認証評価機関による第三者評価を受け、その結果を公表することが義務付けられています。また、認証評価は各大学を対象に7年周期で実施され、本学は過去2回の認証評価を受けていますから、今回は3回目です。米国では基準に達しない多くの大学(と称する)学校による学位の販売(degree mill)問題を解決し、大学の質保証を行うために導入された制度ですが、日本の認証評価も同様に、大学の教育研究水準の維持向上がその目的です。

本学は、全学評価分科会及び専門評価分科会からは、ほぼ全項目で4段階(A~D)のB評価を受け、大きな不具合はありません。本学全体では、薬用植物園の「北方系伝薬物研究センター」における北方薬物等

に関する遺伝子バンクやデータベース化を通じた新規薬物開発事業がユニークで高く評価されました。一方、課題として助言を受けた項目に、研究科における成績評価基準の明確化、学位審査・授与の手続き上の改善、国際交流活動の促進などがあります。前二者の改善事項は、直ぐにでも改善可能なものですが、国際交流活動の促進については、中長期的な取り組みが必要です。本学の教育理念・教育目標に「地域社会ならびに国際社会への貢献」、学部教育目標に「国際的な視野で活躍できる能力を養う」、「国際的に貢献しうる学識と行動力を涵養する」と謳われていますし、将来のグローバルな医療を考えると、全学部における国際化は避けて通れないと考えます。次回の大学評価(認証評価)受審は、2018年度です。それまでに、上記の課題はぜひ解決し次回はA評価を獲得したいものです。



CONTENTS

大学基準協会による「大学基準適合認定」を受けて	1
教員役職者・新任教員・昇任教員紹介	2
歯科医療最前線	3
国家試験結果報告	4
就職状況結果報告	5
2011年度入試結果報告 新入生オリエンテーション	6
東日本大震災の被災地へ医療スタッフを派遣 高大連携協定を締結	7
私の学生時代	8
OB訪問 [心理科学部臨床心理学科]	9
学校法人東日本学園 ○2010年度決算 ○2011年度予算	10
新入生アンケート結果報告 EDITOR'S NOTE	12

教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介

新規選出教員役職者

平成23年4月1日付

歯学部	学生部長	越智 守生
	教務部長	坂倉 康則
	学生部副部長	柴田 俊一
		塚越 博史
看護福祉学部	看護学部長	平 典子
	教務部長	志水 幸
	学生部副部長	佐々木重幸
	教務部副部長	白石 淳

歯学部附属歯科衛生士専門学校校長

東城 庸介

平成23年5月1日付

心理学部	学生部長	木下 憲治
------	------	-------

新任教員

平成23年4月1日付



看護福祉学部講師
(臨床福祉学 医療福祉臨床学)

巻 康弘 (まき やすひろ)

PROFILE

北星学園大学文学部卒業。同大学院社会福祉学研究科修士課程修了。静仁会静内病院地域医療部副主任、五輪橋内科病院地域医療部主任、北樹会病院医療福祉科科长兼地域医療部課長等を経て、本学就任。社会福祉学修士。



個体差医療科学センター講師
(医学部門)

有賀 俊英 (ありが としひで)

PROFILE

北海道大学医学部卒業。同大学院医学研究科修士課程修了。北海道大学医学部附属病院眼科医員、富良野協会病院、砂川市立病院眼科医長、札幌社会保険総合病院眼科部長等を経て、本学就任。医学博士。



心理学部講師
(言語聴覚療法学科)

橋本 竜作 (はしもと りゅうさく)

PROFILE

立命館大学文学部卒業。東北大学大学院医学系研究科修士課程修了。田尻町国民健康保険診療所心理担当主任、大阪医科大学医学部助教、日本学術振興会特別研究員等を経て、本学就任。障害科学博士。



認定看護師研修センター専任教員
(緩和ケア分野)

木村 恵美子 (きむら えみこ)

PROFILE

市立小樽病院高等看護学院卒業。本学認定看護師研修センター緩和ケア分野修了。旭川厚生病院、時計台病院、札幌循環器クリニック、札幌共立病院看護師を経て、本学就任。

歯学部	助教 (口腔機能修復・再建学系(う蝕制御治療学))	小池 俊之
	任期制助手 (口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	日高 竜宏
		藤原 潤
	任期制助手 (口腔機能修復・再建学系(う蝕制御治療学))	向林 路子
	任期制助手 (口腔機能修復・再建学系(高度先進保存学))	上田 修平
		木下 司
		林 良憲
	任期制助手 (口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学))	小池 智子
		土屋 一陽
	任期制助手 (口腔機能修復・再建学系(クラウンブリッジ・インプラント補綴学))	田村 直
		仲井 太心

歯学部	任期制助手 (口腔機能修復・再建学系(高度先進補綴学))	当山 大介
		山下 元子
	任期制助手 (口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学))	齋藤 貞政

看護福祉学部	助教(看護学科 臨床看護学)	本吉美也子
--------	----------------	-------

心理学部	助教(言語聴覚療法学科)	小川 七世
------	--------------	-------

平成23年4月25日付

看護福祉学部	助教(看護学科 地域保健看護学)	難波 香織
--------	------------------	-------

昇任教員

平成23年4月1日付



心理学部教授
(臨床心理学)

鈴木 裕子 (すずき ゆうこ)

PROFILE

弘前大学理学部卒業。北海道大学大学院理学研究科修士課程修了。本学歯学部助手、講師、准教授等を経て、心理学部教授就任。理学博士。



歯学部准教授
(口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学))

會田 英紀 (あいた ひでき)

PROFILE

北海道大学歯学部卒業。同大学院歯学研究科修士課程修了。北海道大学歯学部助手、同大学院歯学研究科助教、カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員研究員、本学歯学部講師等を経て、准教授就任。歯学博士。



看護福祉学部准教授
(看護学科 地域保健看護学)

竹生 礼子 (たけう れいこ)

PROFILE

千葉大学看護学部卒業。本学大学院看護福祉学研究科修士課程修了。虎の門病院分院看護師、東京都江東区城東保健所保健師、東札幌病院看護師、訪問看護ステーションみずは管理者、本学看護福祉学部講師等を経て、准教授就任。看護学修士。



薬学部講師
(人間基礎科学)

新潟 丈治 (にいおか たけはる)

PROFILE

昭和大学薬学部卒業。同大学院薬学研究科修士課程修了。昭和大学診療放射線専門学校兼任助手、本学歯学部助教等を経て、薬学部講師就任。薬学博士。

配置替

平成23年4月1日付

薬学部	教授(病院薬学)	逸藤 泰
	講師(病院薬学)	岩尾 一生
	講師(病院薬学)	千葉 智子
	講師(病院薬学)	木村 治
	助教(病院薬学)	藤崎 博子
	助教(病院薬学)	及川 孝司

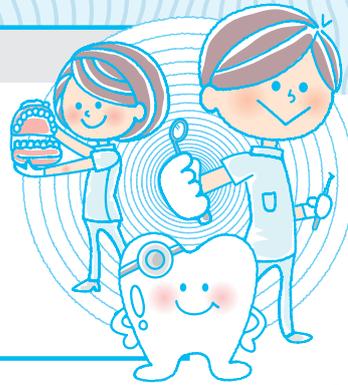
歯学部	教授(教養教育学系(人間基礎科学))	東城 庸介
	教授(口腔機能修復・再建学系(高度先進保存学))	川上 智史
	教授(口腔機能修復・再建学系(高度先進補綴学))	舞田 健夫
	教授(生体機能・病態学系(顎顔面口腔外科学))	永易 裕樹
	教授(生体機能・病態学系(高齢者・有病者歯科学))	安彦 善裕
	准教授(口腔機能修復・再建学系(高度先進保存学))	藤井 健男
	准教授(口腔機能修復・再建学系(高度先進補綴学))	疋田 一洋
	准教授(生体機能・病態学系(高齢者・有病者歯科学))	池田 和博
	講師(口腔機能修復・再建学系(高度先進補綴学))	田村 誠
	講師(生体機能・病態学系(顎顔面口腔外科学))	北所 弘行

歯学部	講師(口腔構造・機能発育学系(小児歯科学))	齋藤 正人
	助教(口腔機能修復・再建学系(高度先進保存学))	尾立 達治
		小西ゆみ子
	助教(口腔機能修復・再建学系(高度先進補綴学))	神成 克映
	助教(生体機能・病態学系(組織再建口腔外科学))	淀川慎太郎
	助教(生体機能・病態学系(顎顔面口腔外科学))	吉本 良太
	助教(生体機能・病態学系(歯科麻酔科学))	小関 裕代
	助教(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学))	山崎 敦永
		鳥谷奈保子
	助教(口腔構造・機能発育学系(小児歯科学))	野呂 大輔

歯科医療 最前線

vol.2

〔 歯科医師の仕事 編 〕



むし歯を治すだけが歯科医師の仕事？

「口全体」のお医者さん 役割は大きく広がっています

「歯科医師の仕事は何？」と聞かれて、みなさんがまず思い浮かべるのは、むし歯、歯周病、歯並びを治すことではないでしょうか。確かに歯科医師は歯のスペシャリストです。でも、歯の治療は歯科医師の仕事の一部にすぎません。歯科医師は、舌や口の中の病気、口の周りやあごの病気、症状によっては首や顔までのとても広い範囲を診ています。「口腔領域全体」の健康管理が役割なのです。(口腔＝口の中全体)

例えば、あごが痛い、口が開かない、あごを動かすとカクカク音がするなどの症状が出る顎関節症という病気。あごの関節の中の関節円板のずれが主な原因で、ずれを戻す治療は歯科医師が行いますが、治療法も筋肉マッサージや温湿布から手術までと症状によって様々です。

口の中のがん、高齢者のケア 専門医の育成が急がれます

口の中にもがんはできます。舌や歯ぐきなどのがんを総称して口腔がんといいます。年々増加しています。がんですからもちろん命に関わる病気で、早期発見・早期治療が重要です。この口腔がんの手術を行っているのは、歯科医師である口腔外科医です。しかし、口腔外科の専門医は、まだまだ不足しているのが現状です。

また、高齢者ケアも人材育成が急がれる分野です。高齢者に多い、ものを飲み込む機能が低下する「嚥下(えんげ)障害」への対応もその一つ。肺炎や窒息を引き起こす場合が多く、防止には歯科医師の治療やサポートが必要になります。この嚥下障害のリハビリは言語聴覚士の専門分野でもあり、歯科医師と言語聴覚士が協力して治療にあたるのが理想的な私たちです。

歯科医学、歯学部では、全身的な医学の基礎を学び、口腔がんの手術や、口・のどの動きをよくする訓練法なども習得します。「口腔医学」という言葉で表されるように、体全体を知った上で口全体の健康を支えていくのが歯科医師なのです。

口の中には
いろんな病気が
あるんだね。



TOPICS

唾石治療用に極細内視鏡を開発しました。

だ液の通る管にできる石を唾石(だせき)と言います。大きくなって管をふさぐと唾液腺の細胞を破壊、ばい菌を殺すだ液が作られず感染源となってしまうため、全身麻酔で顔面を3cmほど切開し、腺ごと摘出するのが一般的です。でも私は様々な症例を見るうち、内視鏡治療ができるケースがあることに気づきました。そこでドイツのメーカーと世界最小の治療用内視鏡を共同開発。大きい唾石でも砕いて排出可能にしました。顔を傷つけず、局所麻酔でできる患者さんにやさしい治療法です。

内視鏡治療、画像診断の専門家を自負する私も、歯科医師です。

歯学部 中山 英二 教授

わが国口腔外科分野のIVR(Interventional Radiology/画像診断手技)を利用して検査と同時に行う治療、手術)を第一線で実践する歯学博士。



歯科医師・中山教授が設計し、ドイツのクラフトマンシップが発揮された治療用内視鏡。映像用光ファイバーが内蔵され、口内の唾液腺の出口から挿入して、モニタを見ながら唾石をつかむバスケット鉗子で摘出するという画期的な唾石治療法が実現しました。世界最小の治療用内視鏡は、その細さから、涙腺などへの応用も期待されます。

国家試験

結果報告

各国家試験で本学卒業生が大健闘!

本学 全国平均

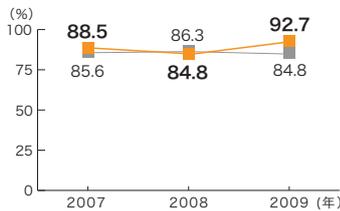
北海道医療大学

(第94回 薬剤師国家試験)

全卒業生の97.2%が薬剤師免許を取得。6年制の国家試験受験は2012年から

薬剤師国家試験において本学では高い合格率をキープしてきました。旧4年制の最終学年が卒業した2009年の国家試験では合格率92.7%(新卒受験者123名、合格者114名)と、全国国公私立61大学中第9位、東北以北第1位の好成績でした。なお、6年制移行後の最初の国家試験は2012年に行われます。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

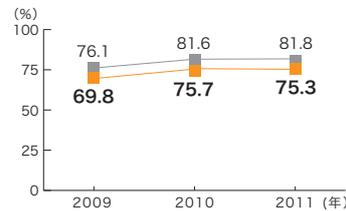


(第104回 歯科医師国家試験)

全卒業生2,779名のうち、97.9%が免許を取得

2011年に行われた第104回歯科医師国家試験では、本学新卒者77名のうち58名が合格し、合格率は75.3%でした。なお、全卒業生2,779名のうち、97.9%(2,722名)が免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

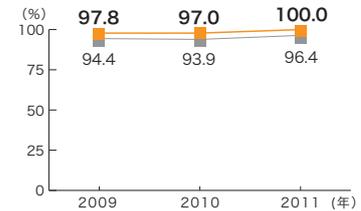


(第100回 看護師国家試験)

新卒合格率は100%! 開設以来、全国平均を上回る

2011年の第100回看護師国家試験では本学新卒者全員が合格するという好結果を収めました。本学科の前身である札幌医療福祉専門学校を含め、本学ではこれまで看護師国家試験において全国平均を上回る合格率を維持しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

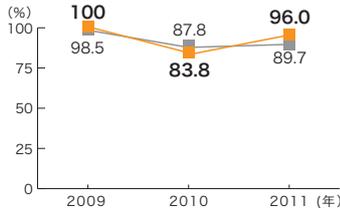


(第97回 保健師国家試験)

新卒合格率は96.0%。多くが看護師とのダブルライセンスを獲得

2011年の第97回保健師国家試験では96.0%(受験者99名、合格者95名)でした。また、合格者のうち91名が看護師と保健師の国家資格をW取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

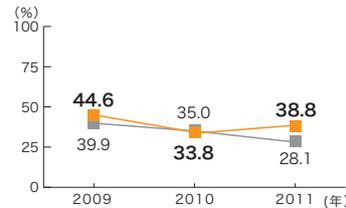


(第23回 社会福祉士国家試験)

新卒合格率は38.8%で、全国平均を上回る

2011年の第23回社会福祉士国家試験での本学新卒合格率は38.8%(受験者80名、合格者31名)で、全国平均の28.1%を上回りました。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

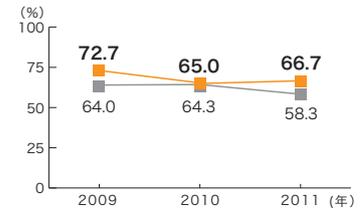


(第12回 精神保健福祉士国家試験)

新卒合格率は66.7%で、全国平均を上回る

第12回精神保健福祉士国家試験の新卒合格率は66.7%(受験者24名、合格者16名)でした。また、「精神保健福祉コース」の学生の多くが社会福祉士とのダブルライセンスを実現しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

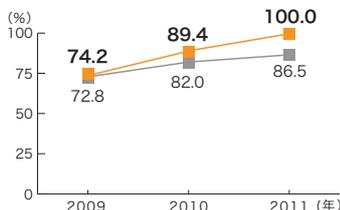


(第13回 言語聴覚士国家試験)

新卒合格率は100%! 全卒業生の97.5%が免許を取得

2011年の言語聴覚士国家試験では本学新卒者全員が合格するという好結果を収めました。1期生から連続して全国平均を上回っています。また、これまでの全卒業生324名のうち316名が言語聴覚士国家資格を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



■登録・認定資格取得結果

資格・対象学部学科等	取得者数
介護福祉士 北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科 (介護福祉コース)	15名
認定心理士 北海道医療大学 心理科学部臨床心理学科	71名
訪問介護員2級 北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科 歯学部附属歯科衛生士専門学校	21名 55名

※取得者数は申請要件を満たしている者の数

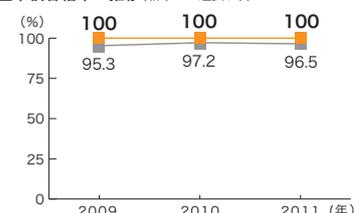
歯学部附属歯科衛生士専門学校

(第20回 歯科衛生士国家試験)

新卒者56名全員が合格

2011年の歯科衛生士国家試験は、本校から第26期生56名が受験し、全員が合格して合格率100%を達成しました。開校以来、国家資格取得率99.9%を達成しています。また、本校は文部科学省の定める一定の基準を満たした専門学校なので、卒業すると「専門士」の称号が与えられます。

■本校合格率の推移(新卒のみ過去3年)



就職状況 結果報告

本学卒業生への評価の高さが、求人の質・量に直結。
より深い知識修得を目指し大学院へ進学する人も。

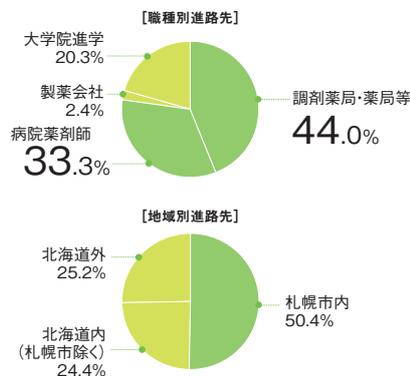
薬学部

2009年は3,000人を超える求人。
6年制の卒業生は2012年から

旧4年制の最終学年が卒業した2009年は、全国から3,000人を超える求人が寄せられました。卒業生の多くが希望どおりの就職を果たし、総合病院を中心に病院薬剤師として、また調剤薬局の薬剤師として活躍しています。なお、6年制の第1期生は2012年に卒業します。

■2009年3月卒業生の就職先

求人数	
薬剤師	3,122人
MR-研究開発職	338人



歯学部

卒業生全員が臨床能力の向上をめざして臨床研修医の道へ

歯科医師国家試験合格後には臨床研修が義務化されています。2011年3月の本学の歯科医師国家試験合格者も全員が研修歯科医となり、本学附属歯科内科クリニック、大学病院をはじめとした全国の臨床研修施設で研修を行います。

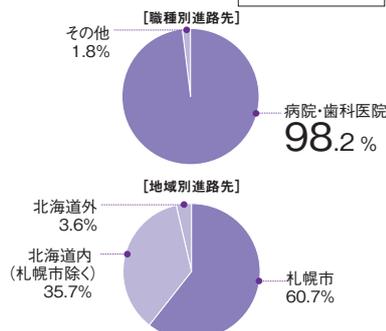
歯学部附属歯科衛生士専門学校

26期連続、就職希望者全員が就職

26期生も即戦力を備えた人材として、広く北海道内の病院・歯科医院に就職しています。今期の卒業生に対する求人数は394名と、就職希望者の7倍もの求人が寄せられ、今年も就職希望者全員が就職し、開校以来26期連続で100%の就職率を果しました。

■2011年3月卒業生の就職先

求人数	
歯科衛生士	394人



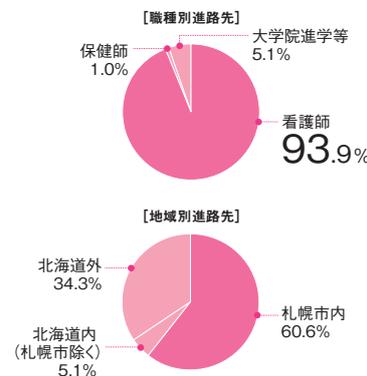
看護福祉学部／看護学科

卒業生は、首都圏を中心に全国の総合病院で活躍

1993年の開設以来2011年までに、本学看護学科からのべ1,510名の卒業生が巣立っていきました。その多くが大学病院、公立病院を中心とした全国の総合病院で活躍中です。医療現場が本学卒業生へ寄せる期待の大きさは、例年の求人数の多さからもわかります。

■2011年3月卒業生の就職先

求人数	
看護師	19,649人
保健師	212人



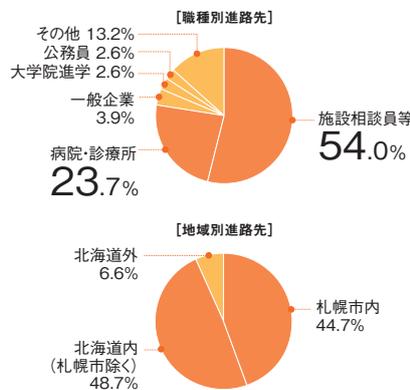
看護福祉学部／臨床福祉学科

就職者のおよそ8割が専門職として病院や社会福祉施設に就職

2011年3月までの卒業生数は、のべ1,875名。即戦力を求める医療福祉の現場からのニーズは高く、就職者の77.7%が病院、デイサービスセンター、特別養護老人ホーム、知的障がい者(児)施設、老人保健施設などに就職しています。また、2011年卒業生の7%は北海道外への就職でした。

■2011年3月卒業生の就職先

求人数	
MSW-PSW	212人
福祉施設相談員・介護職員等	2,274人
一般事務・その他	3,890人



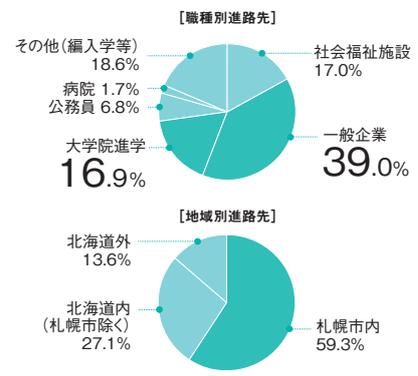
心理科学部／臨床心理学科

全体のおよそ2割が臨床心理士の資格取得をめざして大学院へ進学

2011年卒業生の16.9%が臨床心理士資格をめざして大学院へ進学しました。また、心理の専門性への期待の高まりから求人が増加し、39.0%が幅広い業種の企業に就職しました。

■2011年3月卒業生の就職先

求人数	
心理職	69人
一般事務・その他	3,890人



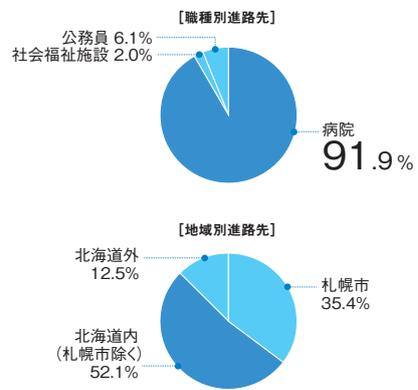
心理科学部／言語聴覚法学科

2011年卒業生の9割以上が病院の言語聴覚士として活躍

専門の治療・訓練を必要とする言語聴覚障がい者の増加に伴って言語治療を行う医療機関や福祉施設が増えていることから、毎年本学科には多くの求人が寄せられ、就職実績は安定したものとなっています。2011年3月卒業生は就職者の9割以上が病院へ就職しました。

■2011年3月卒業生の就職先

求人数	
言語聴覚士	604人



2011年度 入試 結果報告

本年度の志願者総数は3,969名。 ほぼ全ての学科で志願者増。

臨床福祉学科志願者が3割増。

志願者総数は前年度の3,474名より14.2%増の3,969名でした。ほぼ全ての学科で志願者が増え、その中でも臨床福祉学科は前年度より31.6%増となりました。歯学部志願者は2010年度とほぼ同数でした。

編入学試験の志願総数は56名。

薬学部には、1期、2期合わせて21名、言語聴覚療法学科には16名が、それぞれ志願するなど、本学全体では前年度より1名多い

56名が編入学を志願しました。うち33名が入学して、実質競争倍率は1.5倍でした。

大学院の入学者は46名。

大学院入学試験には全体で68名が志願し、うち47名が合格、46名が入学、実質競争倍率は1.4倍でした。入学者のうち16名は社会人です。研究科別の入学者は、薬学研究科博士1名、歯学研究科博士13名、看護福祉学研究科看護学専攻17名(博士1名、修士16名)、同臨床福祉学専攻修士4名、心理

科学研究科臨床心理学専攻11名(博士1名、修士10名)でした。

専門学校志願者の6割がAO方式入試を利用。

毎年多くの志願者がAO方式入試や推薦入試を利用しており、全志願者に占める割合は増加傾向にあります。本年度ももっとも多かったのがAO方式入試の志願者で、全体の約6割を占めました。

■2011年度入試結果
北海道医療大学

歯学部附属
歯科衛生士専門学校

	薬学部	歯学部	看護福祉学部		心理科学部		歯科衛生科	
			看護学科	臨床福祉学科	臨床心理学科	言語聴覚療法学科		
AO方式	志願者数	39名	15名	46名	5名	16名	19名	23名
	受験者数	39名	15名	46名	5名	16名	19名	23名
	合格者数	26名	15名	10名	5名	8名	12名	23名
	実質倍率	1.5倍	1.0倍	4.6倍	1.0倍	2.0倍	1.6倍	1.0倍
一般推薦	志願者数	27名	1名	42名	3名	15名	6名	5名
	受験者数	27名	1名	42名	3名	15名	6名	5名
	合格者数	17名	1名	16名	3名	13名	6名	5名
	実質倍率	1.6倍	1.0倍	2.6倍	1.0倍	1.2倍	1.0倍	1.0倍
指定校特別推薦	志願者数	50名	0名	29名	21名	11名	12名	—
	受験者数	50名	—	29名	21名	11名	12名	—
	合格者数	50名	—	29名	21名	11名	12名	—
	実質倍率	1.0倍	—	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	—
一般前期(大学)	1日目	204名	27名	406名	103名	132名	111名	5名
	2日目	138名	21名	350名	92名	111名	102名	—
	受験者数	195名	25名	402名	86名	131名	103名	5名
	合格者数	127名	28名	92名	110名	103名	76名	5名
一般前期(A・B日程) (専門学校)	志願者数	127名	28名	92名	110名	103名	76名	5名
	受験者数	127名	28名	92名	110名	103名	76名	5名
	合格者数	87名	8名	41名	25名	57名	44名	50名
	実質倍率	2.5倍	1.5倍	8.0倍	1.7倍	2.3倍	2.8倍	1.0倍
一般後期	志願者数	73名	87名	100名	47名	56名	45名	7名
	受験者数	62名	80名	97名	46名	55名	44名	7名
	合格者数	13名	73名	8名	45名	15名	15名	7名
	実質倍率	4.8倍	1.1倍	12.1倍	1.0倍	3.7倍	2.9倍	1.0倍
センター前期	A	200名	48名	203名	66名	95名	77名	—
	B	102名	38名	117名	57名	94名	67名	—
	受験者数	200名	48名	203名	66名	95名	77名	—
	合格者数	52名	46名	41名	25名	57名	44名	—
センター後期	志願者数	54名	25名	40名	43名	42名	37名	—
	受験者数	54名	25名	40名	43名	42名	37名	—
	合格者数	13名	25名	6名	43名	15名	12名	—
	実質倍率	4.2倍	1.0倍	6.7倍	1.0倍	2.8倍	3.1倍	—
TOTAL	志願者数	887名	262名	1,333名	437名	572名	478名	40名
	受験者数	853名	248名	1,309名	429名	562名	473名	40名
	合格者数	336名	226名	227名	349名	266名	220名	40名
	実質倍率	2.5倍	1.1倍	5.8倍	1.2倍	2.1倍	2.2倍	1.0倍
入学者数	186名	41名	111名	72名	73名	77名	38名	

2011年度 新入生オリエンテーション 2011.4/11~12

本学では、新入生の皆さんが大学での新生活をスタートするにあたり、一日も早く大学の環境に慣れて、将来の目標に向かって充実した学生生活を送れるよう、学外の宿泊施設を利用して1泊2日の宿泊オリエンテーションを実施しております。

今年度は、4月11日(月)、12日(火)の2日間にわたり、薬学部及び心理科学部は定山溪ビューホテル、歯学部及び歯科衛生士専門学校は定山溪温泉ホテル鹿の湯、看護福祉学部は定山溪ホテルにおいて実施されました。

薬学部では「クラス別交流会」「卒業生による講演会」「同窓会提供イベント(クイズ大会)」、

歯学部及び歯科衛生士専門学校では「ゲーム大会」「クラス別オリエンテーション」「スライド勉強会」、看護福祉学部では「全体研修(卒業生講話)」「多種多様な相談・交流コーナー」、心理科学部では「アシスタント学生企画によるキャンパス紹介」「学科別プログラム」「コーナー別相談会」など、今年もアイデアと趣向に富んだ企画が満載で、各学部等の特色あふれる内容のプログラムが用意されておりました。

前年度の反省を元に毎年度改善を加えながら、より良いものを目指して、多くの担当の先生や先輩学生が早い時期から時間をかけて準備を積



み重ねてきたこともあり、他の新入生や先生・先輩との交流を深める場として、また、これからの学生生活や将来についてイメージを膨らませる場として、とても有意義な場となっております。

東日本大震災の被災地へ医療スタッフを派遣 ～全学をあげて支援～

北海道医療大学では、各関連省庁等の要請に基づき、様々な資格、専門知識及び医療スキルを有する本学教員を医療スタッフとして被災地へ派遣するなど、東日本大震災の復興に向け、全学をあげて支援しています。

歯科医師（歯科診療）

厚生労働省の要請に基づき、歯科診療チームを宮城県に派遣しました。

◎:チーム責任者 ○:班長

班	活動従事期間	支援者
第1班	4/11～13	◎越野 寿 教授(咬合再建補綴学)
	4/11～17	○河野 舞 助教(咬合再建補綴学)
		小池 俊之 助教(う蝕制御治療学) 倉茂 秀平 助手(歯科麻酔学)
第2班	4/18～24	○奥村 一彦 講師(組織再建口腔外科学) 松原 国男 歯科医師(訪問歯科医・歯科内科クリニック) 衣笠 裕紀 助教(歯周内治療学)
第3班	4/25～5/1	○半田 慶介 講師(う蝕制御治療学) 松原 秀樹 助教(クラウンブリッジ・インプラント補綴学) 草野 薫 助教(顎顔面口腔外科学)
		○倉重 圭史 講師(小児歯科学) 藤原 正 助手(歯周内治療学)
第4班	5/2～8	倉茂 秀平 助手(歯科麻酔学)
	5/2～5	越野 寿 教授(咬合再建補綴学)
	5/6～8	
第5班	5/9～15	○泉川 昌宣 助教(う蝕制御治療学) 川西 克弥 助教(咬合再建補綴学) 斎藤 貞助 助教(歯科矯正学)
		○小池 俊之 助教(う蝕制御治療学) 河野 舞 助教(咬合再建補綴学)
		○半田 慶介 講師(う蝕制御治療学) 油尾 俊也 助手(う蝕制御治療学)
第6班	5/16～22	
	5/16～18	
	5/19～22	



歯科診療の様子
(手前)衣笠 裕紀 助教(歯周内治療学)
(奥)奥村 一彦 講師(組織再建口腔外科学)



歯科診療チーム第1班(右から)
越野 寿 教授(咬合再建補綴学)、小池 俊之 助教(う蝕制御治療学)、河野 舞 助教(咬合再建補綴学)、倉茂 秀平 助手(歯科麻酔学)

歯科医師（身元確認）

警察庁から日本歯科医学会への要請に基づき、歯科医師を岩手県に派遣しました。

班	活動従事期間	支援者
第1班	4/20～22	豊下 祥史 講師(咬合再建補綴学) 野呂 大輔 助教(小児歯科学・大学病院)
		齊藤 正人 講師(小児歯科学・大学病院) 高橋 昌己 助教(解剖学)
第2班	4/23～25	

看護師・保健師（巡回健康相談）

北海道庁の要請に基づき、保健師を宮城県気仙沼市へ派遣しました。

班	活動従事期間	支援者
第1班	3/22～27	吉野 賀寿美 助教(地域保健看護学)
第2班	3/28～4/2	川村 三希子 教授(臨床看護学) 竹生 礼子 准教授(地域保健看護学)
		高橋 久江 講師(臨床看護学) 北村 美奈子 助教(臨床看護学)
第3班	4/3～9	

薬剤師

北海道薬剤師会の要請に基づき、薬剤師を岩手県山田町、岩手県宮古市へ派遣しました。

班	活動従事期間	支援者
第1班	4/6～10	櫻田 渉 講師(実務薬学教育研究)
第2班	5/5～7	

医師（災害派遣帰還職員に対する惨事ストレスケア）

札幌市消防局の要請に基づき、医師(精神科)を派遣しました。

活動従事期間	支援者
3/24.28.29	中野 倫仁 教授(臨床心理学科)

通訳（福島第一原発発電所事故における対策会議）

国際連合の要請に基づき、通訳として東京都へ派遣しました。

活動従事期間	支援者
4/9～10	塚本 容子 教授(臨床看護学)

北海道有朋高等学校と高大連携協定を締結しました

4月14日(木)、本学において北海道有朋高等学校村田政孝校長と本学新川詔夫学長により、高大連携に関する協定の調印式が行われました。

この協定は「大学の持つ知的財産を広く社会に還元し地域社会の発展に貢献すると同時に、次代を担う高校生に対して早い時期から保健・医療・福祉の学問領域について興味・関心を育む機会を提供し、本学が求める学生像及び教育内容への理解を深めること」を目的としています。

協定調印を受け、同日より有朋高校の生徒さん5名が心理科学部1年に配当されている「個体差健康科学」を大学生と一緒に受講しています。



前列左より新川学長、村田校長、後列左より永井教頭、大谷教諭、大野副学長

「なんとなく」から はじまっても

薬学部
薬学科

講師 近藤 朋子



「生物(いきもの)」が好きだから、生物系がいいかな。私が大学へ進学するにあたって学部を選んだ理由はこんな感じでした。そんな理由から長い学生生活が始まりました。

大学に入ったらクラブへ、と考えた時に高校にはないクラブで弾いてみたかった「マンドリン」が弾けるということで「アウロラ」に入りました。あまり練習熱心ではありませんでしたが、2年生になり函館キャンパスへ行っ



学部の卒業式。講座のみんなと(前列左端が私)

邂逅

—人生の原点を築く

看護福祉学部
臨床福祉学科

教授 志水 幸



私が学部・大学院時代を過ごしたのは、1980年代である。振り返ってみれば、80年代は、後半のバブル経済に象徴される社会・経済・文化の一つの転換期とも言える時代であった。学問の世界、とりわけ人文・社会科学領域では、構造主義を淵源とする「ニュー・アカデミズム(以下、ニューアカ)」が興隆してきた時代である。1983年、弱冠26歳で京大研究所助手に就任した浅田彰が、院生時代に書き溜めた原稿を刊行した『構造と力』は、15万部を売り上げる大ベストセラーになった。ニューアカは、学際的、あるいは特定の学問領域を超えた思考・研究、つまり“越境する知”にもとづく現代思

らも週末は札幌へ来て練習して演奏会にでるくらいクラブ活動を堪能しました。

4年になり講座を決めるにあたって、やはり生物の中でも魚を扱えて興味があった生殖の研究をしている淡水学講座を選びました。淡水学講座はウナギやサケを材料として研究を行っていた教室で、実験材料

が余ったりすると(もちろん何もしていないのですが)みんなで料理をして食べることもあり、ウナギのかば焼きを器用に作る先輩たちに驚いた覚えがあります。個性の強い先輩たちに少々驚きながらも先輩たちの真剣に実験をする姿を見て、自分もこういう風に研究をできるようになりたいと思うようになり、修士に進むことになりました。修士からは同じ生殖の研究ができる理学部の生体情報分子学講座に入り、6年間の研究生活が始まりました。理学部では実験材料が熱帯魚になり、毎日20個以上の水槽の水替えをしながら、卵成熟過程についての研究をしてい



修士2年時。研究室での慰霊祭(中央が私)

ました。毎朝「今日も魚たちは元気かな?」と水槽をのぞいてから、何時間も顕微鏡を覗いていた日々がとても懐かしいです。研究ばかりの日々かというそうではなく、博士課程になると、教養1年時の学生実習を担当することになり、「教えること」の楽しさと難しさを知ることとなりました。また、バイト代を貯めて休みをもらっては海外旅行に行くというあまり大学院生らしくないこともしていました。このような私を根気強く指導してくださった理学部の山下正兼教授には本当に感謝しています。学生実習はその後8年も続けることとなり、これがのちの職業につながることになり

ました。「なんとなく」で始まった学生生活ですが、このときのさまざまな経験や、人との出会いのおかげで現在の私があるような気がします。

私の 学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。

今回は近藤講師と志水教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

想の展開であった。この思想は、やがて「ポスト・モダニズム」と呼ばれるようになる。その潮流は、私が専攻する社会福祉学分野でも、90年代以降に移殖され現在も命脈を保っているかに見える。

翻って、当時の私はどうだったのか?これは一つの学問上の立場表明になるのだが、なぜかニューアカの“ゆらぎの思考法”には違和感をおぼえた。私が求めたものは、より厳格な、より(歴史性を踏まえた)正統な、いわば“伝統的思考法”であった。学生時代の財産を“邂逅”として焦点化するならば、すなわち良き師・良き友・良き書との出会いであろう。私の先生は、時流に翻弄されない透徹した知性と感性を兼ね備えられた方であった。また、その師のもとで薫陶を受けた学友は、先輩・後輩ともに爽やかな品格に恵まれた人々であった。さらに、良書

である。87年に刊行された村上春樹の『ノルウェイの森』で、主人公がグレート・ギャツビーを読んでいる場面で、先輩の(死後30年を経ていない作家の本は原則として手にしない)永沢から、「時の洗礼を受けてないものを読んで貴重な時間を無駄にしたくないんだ。人生は短い」(上巻66頁)と言われる件がある。最新の作品に触れることも大切なことであるが、古典的名著に親しみ温故知新の感性を鍛えることも必要であると思う。

さて、自らの学生時代を振り返り、何を学生たちに伝えるべきであろうか。誤解を恐れずに言えば、人間や社会に対する基本的な認識枠組みや態度は、十代後半から二十代前半の多感な時代の中でしか育まらない。学生時代とは、いわば自身の人生の原点(核)を築くための大切な時間である。私の場合は、基本となる型を求めた。型は模倣によってのみ会得される。何を模倣すべきか、自らを薫風の中におくように心がけることが肝要である。

OB訪問

今回訪ねたのは、札幌から高速道路で2時間弱、噴火湾に臨み冬の長い北海道のなかで、ひと足早く春が訪れる伊達市。臨床心理士として9年のキャリアをもつ河内さんは、本学OB、そして大学院博士課程で学ぶ現役の社会人大学院生です。

北海道社会福祉事業団「太陽の園」
発達援助センター 主任心理士

河内 哲也さん

(看護福祉学部医療福祉学科臨床心理専攻2000年卒業、
大学院看護福祉学研究所臨床福祉・心理学専攻修士課程2002年修了)

※上記学部・大学院は現在の心理科学部・心理学研究科です。



担当教員との約束。

伊達市街地の向こうに大きく太平洋を望む「太陽の園」は知的障がい者総合援護施設のモデルとして1968年、全国に先駆けて設立されました。同園の、発達援助センターが今回ご紹介する河内さんの職場です。心理士として働き始めたのは2002年、大学院修士課程を修了し博士課程受験を目前にした時期に研究室に舞い込んだ求人からでした。「ゆくゆくは臨床と研究を並行して実践しながら臨床家の育成に貢献」を目標にする河内さんは、考えていた博士課程進学、臨床の順番を入れ替え、担当教員に「臨床経験を積み戻って来ます」との約束を残し、思いがけず開いた臨床の扉へと進んだのです。そして2011年4月、河内さんはその約束を果たし博士課程に入学しました。

行動療法の実践者。

河内さんは「太陽の園」発達援助センターで主任心理士として発達障がいの子どもの支援にあたっています。臨床心理士、認定行動療法士、臨床発達心理士の資格をもち、主に2〜16歳の子どものアセスメント(心理検査・発達検査・知能検査など)、心理療法、母親のカウンセリングを行います。

心理療法には行動療法を取り入れています。カウンセリングに加え、心理士が一步踏み込んで、できることから少しずつ働きかける方法です。例えば、おもちゃがある→「取って」と声に出して言う→おもちゃが得られる・ほめられる、という3ステップを繰り返しま

す。望ましい行動をとれば自分にメリットがあることを子どもが学習し日常的に同様の行動をとれるよう、また同時に、望ましくない行動を減少できるよう、様々なシチュエーションで行います。子どもの行動の変化に周囲が気づき適切に反応することが大切ですから、親や学校の先生と連携しながら進めます。

「発達障がいは、周囲の理解と配慮で安定して日常生活を送れるようになるケースが多いです。ですから私の仕事の半分は獲得したほうがいいスキルを子どもに教えること、半分はその子を取り巻く環境づくりです」。河内さんは行動療法でスキルを教え、定期的にフォローすることに加え、周囲が継続的にその子を支援していくための調整・連携にも力を注いでいます。

地域が頼りにする心理士。

河内さんと話していると、地域社会における心理士の役割が欠かせないものとなっていることがわかります。乳幼児検診での発達相談、市町村の療育に関わる職員への助言、保育園や幼稚園、小中学校に向かい気になる子どもがいればその保育・教育への助言など地域での業務が河内さんの仕事の約3分の1を占めるそうです。

発達障がいの子どもが安定して生活を営めるよう、母親・家族が安心して笑顔でいられるよう、河内さんは地域社会のなかを縦、横、斜め、自由に歩き、療育機関・施設と地域をしっかりとつなぎながら行動する心理士です。

自分のことは飾らない。

臨床の醍醐味を何うと、「自己満足」との答えが返ってきました。普通は「達成感」というところでしょうが、本音をさらけ出すような表現に驚かされます。よかれと思うことを実践しながら進み、子どもの行動に反映されたとき、母親が喜んだとき、臨床の「覚悟していた以上の手強さ」を補ってなお余りある大きな自己満足を得るそうです。「それが次へ進むためになくてはならない



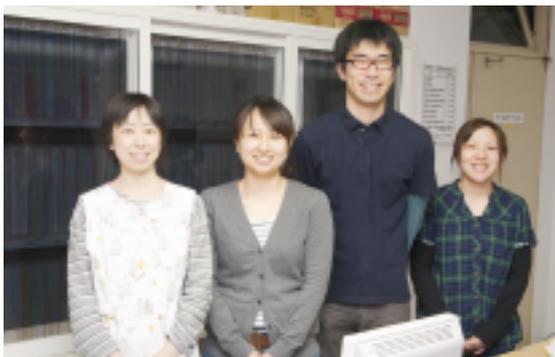
臨床に出てすぐ、目の前の子どもの様子、反応を見逃さず、本学で得た知識と的確に結びつけることの難しさを痛感した河内さん。以前にも増して論文を読み、研究会や学会にも積極的に参加しています。

い動機づけになります」。柔らかな印象の奥に、現場に臨む者の潔さが垣間見えます。

研究対象は心理士。

河内さんは臨床家として多くの子どもたちの歩みに寄り添いながら、研究では基礎的なものに取り組んでいます。修士論文から続いて博士論文でも、テーマは「心理士の認知」、つまり頭の中。多くの心理士に協力してもらい実験を重ね、心理士がクライアントをどう考え、どう見立てているか、知識や情報をどう整理し、利用しているかを探っています。心理士の認知の特徴をつかみ、それを生かした有効で効率的な心理士育成の教育法へと発展させることが狙いです。

臨床と研究、二足のわらじを履き、ますます多忙を極める河内さんですが、「頑張る。でも頑張りが過ぎない」という自身のスタイルを貫きながら、いつかきっと臨床と研究、教育の見事なハーモニーを心理学のステージで奏でてくれることでしょう。期待しています!



受付・医療事務(左)、河内さんの両隣は言語聴覚士です。医師、作業療法士はじめ、スタッフは誰も白衣を着ません。子どもへの配慮はもちろんです。職員間の垣根も低くなるのか、温かなチームワークが伝わってきます。



学部、大学院修士課程の6年間、軽音楽部でベースとギターを担当し、大学祭(写真)ほか、当別町の飲食店を借り切ってライブも開催。演奏と共に、ライブの企画、会場設営など一連のプロセスを存分に楽しんだといいます。

2010年度決算について

2010年度決算は、学園監事による監査を受けた後、5月26日開催の理事会において承認されましたので、その概要についてお知らせします。

2010年度決算の概要

はじめに

経済状況の悪化や少子化による18歳人口の減少等により、学校法人の経営は一層厳しさを増しています。そうした状況下においても本学園の社会的使命である教育研究活動を発展させていくため、授業料収入などの有限の財源のほかに補助金や受託研究等外部からの資金導入を積極的に図り効率的・効果的に教育研究活動を展開してきました。今後も努力を重ねてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

【計算書の解説】

資金収支計算書は、当該会計年度における法人全体の教育研究活動等諸活動に対する資金の収支を明らかにするものです。

消費収支計算書は、当該年度の学生納付金等の「帰属収入」から「基本金組入額」を控除した「消費収入」と人件費・教育研究費等の「消費支出」との均衡状態、内容により経営状況を把握するものです。消費収支計算書は、資金収支計算書の収入から学校法人の帰属収入とならない借入金等収入および資金の動きだけを示す前受金、その他の収入等は除かれます。また、支出から借入金等返済支出、施設関係支出、設備関係支出等が除かれます。一方、消費支出として退職給付引当金繰入額および減価償却額が計上され、寄付金収入には現物寄付金が計上されます。

消費収支計算書の基本金組入額とは、教育研究のために取得した資産(校舎・校地・機器備品・図書等)の額、将来取得する資産に充てる額、基金として継続的に保持する資産の額、運営に必要な運転資金の額が対象です。

貸借対照表は、学校法人の会計年度末の財政状態をあらわした計算書類で、負債、基本金および消費収支差額の状況を前年度末の額と比較して示します。

【資金収支計算書】

収入に関しては、寄付金収入が予算比1,485万円増、雑収入が予算比1,013万円増となりました。補助金収入が予算比4,557万円減、事業収入が予算比4,949万円減となりました。収入の計は予算比1億9,857万円減の93億5,711万円となりました。

また、支出に関しては、人件費支出が予算比2億4,420万円減、教育研究経費支出が予算比2億692万円減、管理経費支出が予算比529万円減となりました。施設設備関係支出については、歯学部解剖実習室の改修工事を行いました。支出の計は予算比6億6,023万円減の84億2,067万円となり、次年度繰越支払金は予算比4億6,166万円増の65億1,000万円となりました。

【消費収支計算書】

帰属収入は予算比1億1,916万円減の92億2,717万円となり、基本金組入額は予算比1億2,282万円減の1億9,705万円となりました。その結果、消費収入は予算比366万円増の90億3,013万円です。

また、消費支出は予算比4億9,981万円減の88億9,843万円となり、消費

収支差額(=消費収入-消費支出)は、1億3,170万円の収入超過、翌年度繰越消費支出超過額は103億8,203万円となりました。一方、帰属収支差額(=帰属収入-消費支出)は対予算比3億8,065万円増の3億2,874万円でした。

【貸借対照表】

総資産322億1,079万円のうち、固定資産は250億9,232万円、流動資産は71億1,847万円となりました。流動資産のうち現金預金は65億1,000万円です。

総負債33億7,284万円のうち、固定負債は19億402万円、流動負債は14億6,882万円となりました。なお、長期・短期の借入金はなく、未払金等が減ったため負債額が前年対比1億7,625万円減少しました。これらの結果、総資産から総負債を差し引いた正味資産は288億3,795万円となり、前年対比3億2,874万円増加しました。

また、減価償却の累計額は、210億2,552万円であり、基本金の当期組入額は1億9,705万円であり組入合計額は392億1,998万円です。

資金収支計算書

【収入の部】				【支出の部】			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	6,004,275	5,981,300	22,975	人件費支出	5,486,533	5,242,337	244,196
手数料収入	83,445	85,263	△1,818	教育研究経費支出	2,388,160	2,181,244	206,916
寄付金収入	28,000	42,850	△14,850	管理経費支出	491,048	485,760	5,288
補助金収入	1,170,644	1,125,077	45,567	施設関係支出	123,930	89,826	34,104
資産運用収入	107,306	94,158	13,148	設備関係支出	350,986	230,725	120,261
資産売却収入	19,800	19,801	△1	その他の支出	812,736	789,978	22,758
事業収入	1,593,691	1,544,196	49,495	予備費	(10,815)		39,185
雑収入	333,970	344,104	△10,134		39,185		
前受金収入	898,603	815,450	83,153	資金支出調整勘定	△611,678	△599,203	△12,475
その他の収入	674,922	718,148	△43,226	当年度資金支出合計(B)	9,080,900	8,420,668	660,232
資金収入調整勘定	△1,358,973	△1,413,236	54,263	次年度繰越支払金	6,048,345	6,510,004	△461,660
当年度資金収入合計(A)	9,555,683	9,357,110	198,573	支出の部合計	15,129,245	14,930,672	198,573
前年度繰越支払金	5,573,562	5,573,562	0				
収入の部合計	15,129,245	14,930,672	198,573				

※四捨五入の関係で、合計など数値が計算上一致しない場合があります。なお、以下の表についても同様です。

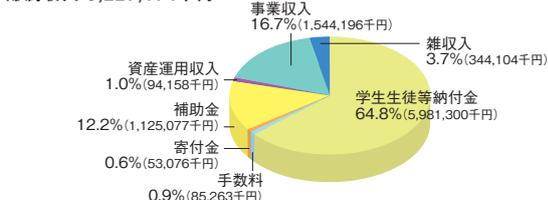
消費収支計算書

【収入の部】				【支出の部】			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	6,004,275	5,981,300	22,975	人件費	5,451,309	5,248,566	202,743
手数料	83,445	85,263	△1,818	教育研究経費	3,311,173	3,077,241	233,933
寄付金	53,000	53,076	△76	管理経費	566,327	552,848	13,479
補助金	1,170,644	1,125,077	45,567	資産処分差額	30,147	18,486	11,661
資産運用収入	107,306	94,158	13,148	徴収不能額	0	1,290	△1,290
事業収入	1,593,691	1,544,196	49,495	予備費	(10,716)		39,284
雑収入	333,970	344,104	△10,134		39,284		
帰属収入合計(A)	9,346,331	9,227,174	119,157	消費支出の部合計(B)	9,398,241	8,898,431	499,810
基本金組入額合計	△319,869	△197,047	△122,822	当年度消費収入超過額		131,696	
消費収入の部合計	9,026,462	9,030,127	△3,665	当年度消費支出超過額	371,779		
				前年度繰越消費支出超過額	10,513,726	10,513,726	
				翌年度繰越消費支出超過額	10,885,505	10,382,031	

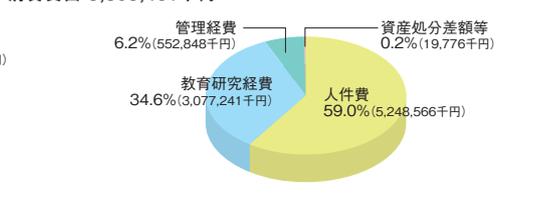
帰属収支差額(A)-(B)	△51,910	328,743	△380,653
---------------	---------	---------	----------

■2010年度消費収支の構成比率

帰属収入:9,227,174千円



消費支出:8,898,431千円



貸借対照表

【資産の部】				【負債・基本金・消費収支差額の部】			
科目	2010年度末	2009年度末	増減	科目	2010年度末	2009年度末	増減
固定資産	25,092,242	25,764,753	△672,429	固定負債	1,904,016	1,902,461	1,555
有形固定資産	17,505,324	18,183,123	△677,881	流動負債	1,468,823	1,646,630	△177,807
その他の固定資産	7,587,081	7,581,630	5,452	負債の部合計(B)	3,372,839	3,549,091	△176,253
流動資産	7,118,467	6,293,548	824,919	基本金	39,219,983	39,022,936	197,047
資産の部合計(A)	32,210,791	32,058,301	152,490	繰越消費支出超過額	10,382,031	10,513,726	△131,696
				合計	32,210,791	32,058,301	152,490

正味資産(A)-(B)	28,837,952	28,509,209	328,743
-------------	------------	------------	---------

財務情報の公開と閲覧

私立学校法が改正され、2005年4月から財務情報の公開が義務化されました。これに伴って在学学生及び学費支弁者、卒業生、教職員、入学予定者等に対し、2010年度「財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、事業報告書、監事による監査報告書」を閲覧に供しますので、当別キャンパスは事務局財務課、札幌あいの里キャンパスは心理学部事務室に申し出願いたします。また、大学ホームページにも財務情報を公開しております。

■主な事業の実績

2010年度事業計画に基づく、主な事業と進捗状況は、以下のとおりです。

【教育及び学生支援活動】

- 1. 薬学実習の実施**
薬学教育6年制課程初年度薬学実習(病院11週、保険薬局11週)を5月から3期に分けて北海道内で実施しました。
- 2. 薬学研究所生命薬科学専攻修士課程の設置**
薬学研究所生命薬科学専攻(修士課程)及び薬学専攻(博士課程前期)の募集を停止し、4年制薬学部卒業生を対象とする生命薬科学専攻(修士課程)を開設しました。
- 3. 看護福祉学研究所ナースプラクティショナー(NP)コースの開設**
看護福祉学研究所看護学専攻にナースプラクティショナー(NP)の教育課程コースを開設しました。
- 4. 文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援の充実等プログラム」採択事業の推進**
 - ①がんプロフェッショナル養成プラン
2007年度採択の「北海道の総合力を生かしたプロ養成プログラム～大学、地域、病院の連携を生かしたがん専門医療人の育成～」について、年次計画に基づき実施しました。
 - ②戦略的工学連携支援事業
a.2008年度採択の「北海道の地域医療の発展を目指した異分野大学院連携教育プログラムによる人材育成」について、年次計画に基づき実施し

- t.
- b.2008年度採択の「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」について、年次計画に基づき実施しました。
- ③大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)
2009年度採択の「学生キャンパス副学長」との協働によるキャリア・就職支援について、年次計画に基づき実施しました。
- 5. 就職・キャリア支援**
 - ①学内合同就職相談会の開催
2010年度又は2011年度の新規卒業生の採用を予定している病院、一般企業、社会福祉施設、行政機関などの参加を得て開催しました。
 - ②薬学生セミナー(学内合同就職相談会)
今後、薬科系大学の増加に伴い、就職競争が厳しくなることを踏まえ、薬学部第5年度の学生を対象に、132団体の人事担当者の参加を得て開催しました。
- 6. 「夢つなぎ入試」の実施**
経済的理由により進学が困難な状況にある受験生を対象とした「夢つなぎ入試」を前年度に引き続き実施しました。なお、歯科衛生士専門学校もその対象となりました。(各学部・学科・学校総募集定員の5～10%)
- 7. 本学卒業生子女入学の奨励**
兄弟で二人目以上の入学者を対象とする複数入学者奨励金(入学相当

- 額)について、本学卒業生の子女にもその適用を行いました。また、本学歯学部卒業生の子女が歯学部に入学した場合、教育充実費を2,000千円を減免する制度を導入し、適用しました。
- 8. その他の経済的支援**
成績優秀、心身健全で、経済的理由で奨学金の貸与が必要と認められた学生を対象とした「一般奨学生」、父母等学費支弁者が災害、事故等により学費の支弁が著しく困難となった学生に貸与される「災害・事故等奨学生」など、本学独自の奨学制度を前年度に引き続き実施し、学生の支援に務めました。
- 【研究活動】**
 1. 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択事業の推進
 - ①「イテクラーサーセンター整備事業
 - a.2006年度採択の大学院薬学研究所「臨界期ストレスと脳の発達障害」分子基盤の解明と治療戦略への応用」について、年次計画に基づき実施しました。
 - b.2007年度採択の大学院歯学研究所「QOLの向上を目指した個性化口腔健康科学の創成」について、年次計画に基づき実施しました。
 - ②学術フロントティア推進事業
2007年度採択の大学院看護福祉学研究所「認知症高齢者のトータルケアに関する学術的研究」について、年次計画に基づき実施しました。

■主な事業の実績(つづき)

- ③私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
2008年度採択の「大学院薬学研究所「薬草園を機軸とした北方系伝統薬物の生物多様性解析から創薬まで」について、年次計画に基づき実施しました。
2. 外部資金の導入
研究活動を活性化し、科学研究費など競争的研究資金へより積極的に申請を行うとともに、寄付金や委託研究など外部資金の導入を図りました。なお、2011年度科学研究費への申請を11月に行いました。
3. 教員研究費の削減及び配分基準の見直し
2011年度から適用すべく、基礎配分額の20%削減、また、重点配分研究費として1,500万円を措置し、競争原理の導入に向けた検討を行い、決定しました。
- 【診療活動】
1. 医療機関の収入状況等
大病院については、延患者数、医療収入ともに、前年度実績を上回ったものの、予算対比では下回りました。また、歯科内科クリニックについては、延患者数は前年度実績、また予算対比では下回ったものの医療収入は上回りました。なお、大病院における病床稼働率(24床)は、47.7%(2009年度:48.6%)でした。
2. 院外処方の実施
大病院の経営改善に資することを目的として、院外処方を実施することを決定しました。なお、実施時期については、2011年度前期を目指しています。

- 【社会貢献・連携】
1. 文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の採択事業の推進
2008年度採択の「地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム」について、年次計画に基づき実施しました。
2. 北海道「福祉・介護人材サポートネットワーク構築事業」の選定事業の推進
今年度選定の「福祉・介護人材サポートネットワーク構築事業(福祉・介護人材確保普及啓発事業)」について、年次計画に基づき実施しました。
3. 高大連携
北海道札幌丘珠高等学校との高大連携に関する協定に基づき「講義・実習をはじめとする事業を行いました。
4. コミュニティバス事業
2006年度より、本学及び当別町を含む3団体の出資によるコミュニティバス(循環バス:当別町~札幌市北区あいの里)を運行しているが、学生・患者及び地域住民の利便性等を考慮し、2010年度についても継続して参画しました。
5. 本学施設の地域への開放
前年度に引き続き、総合図書館、体育館など、本学の施設を地域住民に開放しました。
6. 地域住民への健康・医療情報の提供
前年度に引き続き、「わかりやすい健康情報講座」の開催、また、本学が所在する当別町に対し、「いのちの図書」の貸出等を行い、地域住民に対し、健康・医療情報の発信を行いました。

- 【生涯学習】
1. 薬剤師「生涯研修認定制度 認定機関」として認定
認定看護師は、日本看護協会が実施する認定看護師認定審査に合格し、ある特定の認定看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められた者と定義づけられています。本学では、認定看護師研修センターにおいて、その養成を努めました。
2. 認定看護師の養成
認定看護師は、日本看護協会が実施する認定看護師認定審査に合格し、ある特定の認定看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められた者と定義づけられています。本学では、認定看護師研修センターにおいて、その養成を努めました。
3. 専門看護師の養成
専門看護師は、特定の分野で実践者をサポートできる研究・指導力と、卓越した実践力を備えた看護師と定義づけられており、日本看護協会が資格認定を行っているものです。本学では、大学院看護福祉学研究所において、その養成に努めました。
4. ナースプラクティショナーの養成
大学院看護福祉学研究所看護学専攻において、ナースプラクティショナー(Nurse Practitioner (NP)「診療看護師」の養成カリキュラムをスタートさせました。このNPは、大学院で専門的な教育を受け、症状が安定した状態にある患者を主体に、自立的に問診や検査の依頼、処方等を行うことが認められた看護師であるが、当該養成コースについては、実証的データを得ることを目的として、厚生労働省から「2010年度特定看護師養成調査試行事業」の指定を受けました。
5. 公開講座
設定テーマに沿った開講や内容の充実等、一般向、卒業生・職能人向ともに本学の特色を生かした講座を実施しました。
- 【国際交流】
本学では、大学間4大学(アルバータ大学・台北医学大学・中南大学・モナッシュ大学)、学部間4大学(同済大学・ニューヨーク州立大学バッファロー校・青島大学・インドネシア大学)と連携協定締結し、教育及び学術における国際交流を推進しています。2010年12月13日には、新たにフランスのストラスブール大学歯学部と本学歯学部との間で、学術交流協定が締結され、教員・研究者の相互交流、歯学部学生の交換プログラムの推進、共同研究の促進、学術情報・研究成果の共有が行われる予定です。
- 【広報活動】
学生募集広報
募集広報として前年度に引き続き認知広報としてのテレビCM、ホームページの機能面の拡充、メールマガジンの定期発行、オープンキャンパスを実施しました。2011年度入試においては、歯学部募集定員減、歯科衛生士専門学校でのAO方式入試早期特別枠新設及びAO方式入試2次試験・推薦入試科目変更を行いました。
- 【経営管理】
1. 自己点検評価
大学基準協会が実施する「認証評価」に申請し、「大学基準に適合している」との認定を受けました。認定期間は、2018年3月31日までです。

2. 人件費削減策の実施
国家公務員給与の改定を参考として給与規程を改正し、2010年12月給与から適用しました。
3. ポイント制人件費管理システムの適正な運用
2009年4月よりポイント制人件費管理システムを導入し、人事管理を定数管理型から人件費管理型への改革を図ってきました。各部署の総ポイントとは2012年4月1日まで3%削減することを目標としており、その目標ポイントの設定にあたり、教育体制の見直し等を踏まえ2011年4月1日における各部署基準ポイント及び3%削減対象の部署について決定しました。
- 【施設設備】
1. 歯学部解剖学実習室改修工事
歯学部解剖学実習室の空調設備等改修工事を実施しました。
2. 窓枠パッキンの交換工事
歯学部解剖学実習室の窓枠パッキン(コーキング)の交換工事を実施しました。
3. 証明書発行機の更新
証明書発行機の更新を行いました。
4. 空中歩道連結階段昇降機設置工事の実施
車いす利用者等に対応するため、当別キャンパス内空中歩道に連結する階段昇降機設置工事を行いました。
- 【情報公開規程の整備】
学園が公共性や社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い運営を実現し、構成による自主的な運営と教育研究の質的向上を目的として、情報公開規程を制定しました(制定:2011年3月10日/施行:2011年4月1日)。

- 【2020行動計画】の推進】
1. 教育力向上
教育力向上プロジェクトにおいて示された事項について、継続して検討中です。
2. 医療機関健全化
医療機関健全化プロジェクト答申に基づき実施案の具体的検討案を策定し、実施します。
- ① 個体差医療科学センター改組実施検討委員会
同委員会において策定された改組案について、2011年4月から実施します。
- ② 医療機関一元化実施検討委員会
同委員会において策定された実施案について、2011年9月開催の理事会(第二段階)、2011年度内理事会(第二段階)に申し、実施すべく検討中です。
3. 学部再編・新分野設置等
学部再編・新分野設置等プロジェクト答申に基づき、学部再編・新分野設置実施検討委員会において実施案の検討に基づき進みます。なお、2011年度内に理事会に上申する予定です。
4. 経営管理
前述のとおり一部実施済みであるが、引き続き、効率的かつ健全な経営に向け、諸方策を策定し、実施する予定です。

学校法人 東日本学園

2011年度予算について

2011年度(平成23年度)当初予算は、3月17日開催の評議員会・理事会、予算の補正は、5月26日開催の評議員会・理事会で承認されましたので、その概要についてお知らせします。

2011年度予算の概要

概要

日本私立学校振興・共済事業団の調査によると、2010年度における私立大学の入学定員未充足校の割合は、前年度の46.5%から38.1%とやや改善しています。この一因として、経済不況により地元志向が高まったことが挙げられますが、本学の状況を鑑みた場合、一部の学部では依然として厳しい状況が続いており、中期財務予測では年々厳しい財務状況となることが予測されています。

学園では、「パラダイムシフトによる新医療人育成の北の拠点づくり」を目指し、2009年に、「2020行動計画」をスタートさせました。本計画は、「医療系ブランド人材の育成」「キャンパス再構築」「医療機関の将来展望」「経営管理」の4つの柱からなっており、計画推進のため、「教育力向上」「医療機関健全化」「学部再編・新分野設置等推進」、また緊急アクションの「学生確保」を加えたプロジェクトチームを組成し、あるべき方向性について議論を重ねてきました。

一方、前述のとおり、今後の厳しい経営環境の変化に効率的、かつ、迅速に対応するため、目標の達成に向け行程を定めるとともに、実現に必要な実施検討委員会を組成したところですが、2011年度においては、国家試験対策等教育力の向上・支援及び経済的支援とともに、教育研究の質を担保しつつ、人件費を含む諸経費の効率的運用・削減、医療機関における収支改善、さらには、将来の経営を見据えた学部再編・新分野設置等の実施可能性の検討に着手する予定です。

資金収支予算書

【収入の部】				【支出の部】			
科 目	2011年度予算	2010年度予算	増 減	科 目	2011年度予算	2010年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	6,138,405	6,004,275	134,130	人件費支出	5,416,990	5,486,533	△ 69,543
手数料収入	80,636	83,445	△ 2,809	教育研究経費支出	2,270,433	2,386,497	△ 116,064
寄付金収入	28,000	28,000	0	管理経費支出	441,337	481,996	△ 40,659
補助金収入	976,092	1,170,644	△ 194,552	施設関係支出	131,276	123,930	7,346
資産運用収入	76,001	107,306	△ 31,305	設備関係支出	269,689	350,886	△ 81,197
資産売却収入	0	19,800	△ 19,800	その他の支出	702,687	812,736	△ 110,049
事業収入	1,498,944	1,593,691	△ 94,747	予備費	50,000	50,000	0
雑収入	259,452	333,970	△ 74,518				
前受金収入	775,617	898,603	△ 122,986				
その他の収入	581,359	674,922	△ 93,563				
資金収支調整前	△ 1,202,331	△ 1,358,973	156,642	資金支出調整前	△ 636,489	△ 611,678	△ 24,811
計	9,212,175	9,555,683	△ 343,508	計	8,645,923	9,080,900	△ 434,977
前年度繰越支払資金	6,510,004	5,573,562	936,442	次年度繰越支払資金	7,076,256	6,048,345	1,027,912
収入の部合計	15,722,179	15,129,245	592,935	支出の部合計	15,722,179	15,129,245	592,935

消費収支予算書

【収入の部】				【支出の部】			
科 目	2011年度予算	2010年度予算	増 減	科 目	2011年度予算	2010年度予算	増 減
学生生徒等納付金	6,138,405	6,004,275	134,130	人件費	5,407,021	5,451,309	△ 44,288
手数料	80,636	83,445	△ 2,809	教育研究経費	3,177,222	3,309,510	△ 132,288
寄付金	53,000	53,000	0	管理経費	510,436	557,275	△ 46,839
補助金	976,092	1,170,644	△ 194,552	資産処分差額	20,000	30,147	△ 10,147
資産運用収入	76,001	107,306	△ 31,305	予備費	50,000	50,000	0
事業収入	1,498,944	1,593,691	△ 94,747				
雑収入	259,452	333,970	△ 74,518				
繰入金合計	9,082,530	9,346,331	△ 263,801	消費支出の部合計	9,164,679	9,398,241	△ 233,562
基本全額合計	△ 275,965	△ 319,869	43,904	当年度消費支出超過額	358,114	371,779	
消費収入の部合計	8,806,565	9,026,462	△ 219,897	前年度繰越消費支出超過額	10,382,031	10,513,726	
				翌年度繰越消費支出超過額	10,740,145	10,885,505	

主な事業計画

- 【教育及び学生支援活動】
1. 文部科学省「国公私立大学を通じた大学教育改革の支援の充実等プログラム」採択事業の推進
①がんプロフェッショナル養成プラン「北海道の総合力を生かしたプロ養成プログラム～大学、地域、病院の連携を生かしたがん専門医療人育成～」
②大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)
【学生キャリア副学長との協働によるキャリア・就職支援】
2. 大学院薬学研究所薬学専攻博士課程(新課程)の設置
3. 国家試験対策の充実・支援
4. 就職・キャリア支援
5. 「夢つなぎ入試」の実施
6. 本学卒業生女子学生の奨励
7. 「歯学部特待奨学生」制度の導入
8. 学生への経済的支援
- 【研究活動】
1. 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択事業の推進
①バイオテクノロジーセンター整備事業【QOLの向上を目指した個体差口腔健康科学の創成】
②学術フロンティア推進事業【認知症高齢者のトータルケアに関する学術的研究】
2. 外部資金の導入
3. 教員研究費の削減及び配分基準の見直し
- 【診療活動】
1. 医療機関のあり方について検討・実施
2. 院外処方体制への切り替え
- 【社会貢献・連携】
1. 北海道「福祉・介護人材サポートネットワーク構築事業」採択事業の推進
2. 公開講座
3. 高大連携
4. コミュニティバス事業
5. 本学施設の地域への開放
6. 地域住民への健康・医療情報の提供
- 【生涯学習】
1. 薬剤師支援センター
2. 認定看護師の養成
3. 専門看護師の養成
- 【国際交流】
1. 大学・学部間交流
2. 語学研修
- 【経営管理】
1. 人件費抑制
2. 予算の効率的運用・削減
- 【施設・設備】
1. 看護福祉学部棟外壁塗装及び歯学部・歯科衛生士専門学校屋上防水工事
2. 各学部講義室・歯学部基礎実習室AV機器設備更新
- 【その他】
1. 情報の積極的な公開
2. 「2020行動計画」の推進

2011年 新入生アンケート 結果報告

毎年恒例の全学実施の新入生アンケート。新入生が本学のどこに魅力を感じて志願したのかを聞いてみました。

多くの学生が「医療系総合大学」に期待。

ほぼ全ての学科において、医療系総合大学である点を魅力に挙げた学生が最も多いという結果になりました。また「学生生活」という回答も多く、課外活動などでも他学科との交流が盛んなことに対する大きな期待があらわれています。

注目が集まる国家試験成績と就職状況。

高い合格率を誇る国家試験成績にも、回答が集中。特に言語聴覚療法学科では1番の魅力に。国家試験に強い本学の教育体制は学生にとって強い魅力であると言えます。また安定した就職状況も、同様に多くの注目が集まっています。

歯科衛生士専門学校では、 およそ7割がオープンキャンパスに参加。

施設見学や体験学習などを通して学校の雰囲気や自分の目で実際に確かめられるオープンキャンパス。例年通り、多くの学生がこの機会を利用していることがわかります。

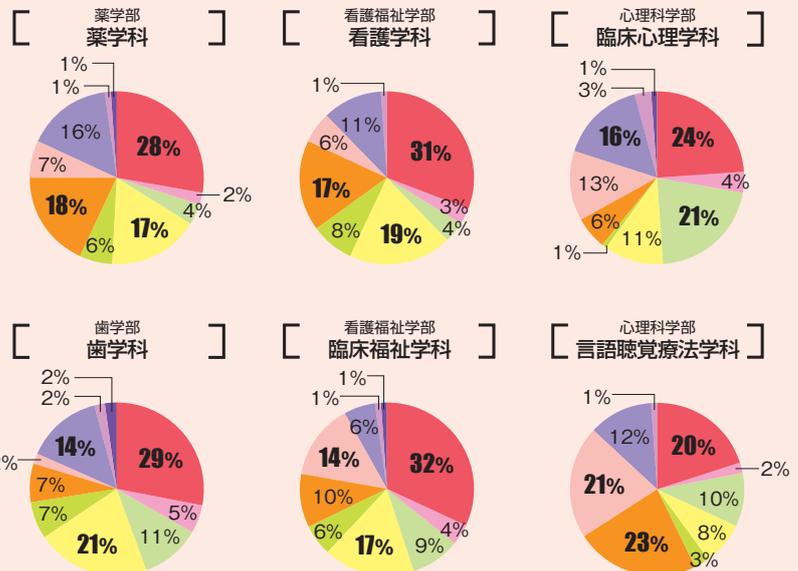
■有効回答者のプロフィール

	薬学部	歯学部	看護福祉学部 看護学科	臨床福祉学科	心理科学部 臨床心理学科	言語聴覚療法学科
回答者人数	179(編入含)	41(編入含)	101	70	73(編入含)	83(編入含)
出身地						
北海道	162	22	98	69	59	69
東北	10	1	2	1	6	7
東京・神奈川・千葉・埼玉	0	5	0	0	2	2
上記以外の関東甲信越	4	1	0	0	3	3
東海・北陸	0	3	0	0	1	1
関西	1	3	0	0	2	1
中国・四国	1	3	0	0	0	0
九州・沖縄	1	3	1	0	0	0
性別						
男	83	30	19	24	27	20
女	96	11	82	46	46	63
卒業年度						
2011年3月	150	15	93	62	61	63
2010年3月	17	4	5	5	6	6
2009年3月以前	12	22	3	3	6	14
入試形態						
AO方式入試	26	15	10	5	8	11
一般推薦入試	17	1	14	3	12	6
特別推薦入試	48	0	28	21	11	12
一般前期入試	58	1	33	10	22	17
センター前期A入試	16	2	6	9	8	8
センター前期B入試	8	0	5	8	9	11
一般後期入試	2	16	3	7	2	7
センター後期入試	4	5	2	7	0	1
編入学試験	0	1	0	0	1	10

北海道医療大学

Q. 本学を志望した際、併願を考えた他大学と比べて本学のどこに魅力を感じましたか？

- 医療系総合大学である
- 校風
- 教育内容
- 学生生活
- クラブ活動
- 国家試験成績
- 就職状況
- キャンパス環境
- 札幌医科大学と連携している
- たくさんのGPなどに採択されている

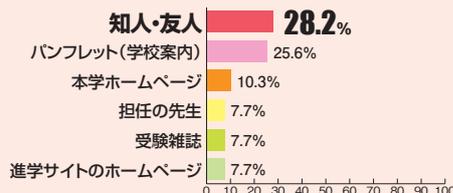


歯学部附属歯科衛生士専門学校

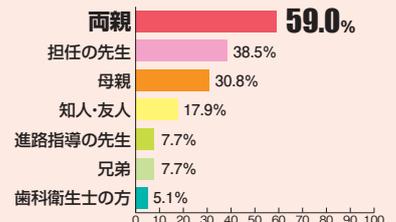
Q. 本校のオープンキャンパスに参加しましたか？

参加した **74.4%**

Q. 本校を何で知りましたか？ (複数回答可)



Q. 進路決定にあたって誰に相談しましたか？ (複数回答可)



EDITOR'S NOTE

多職種との連携・協働を進めるうえでの基本の一つとして「ハウレンソウ(報告・連絡・相談)」がよく言われています。私も学生を臨床実習に送り出す際の指導においては、この「ハウレンソウ」の実施を取り入れています。そして先日、「N・H・K」という言葉を新たに耳にしました。これは職場での人間関係を滑らかにするための振る舞いの基本のひとつで、Nはニコニコした明るい表情、Hはハキハキとした言葉遣い、Kはキビキビとした機敏な動作というものでした。

米国の心理学者(アルバート・メラビアン)の研究報告によると、人は表情などの目から入る情報に最も影響を受けやすく、目からが55%、耳からが38%、言葉によるものが7%ということ。このことから、「ハウレンソウ」とともに「N・H・K」を心掛けたいものですね。

最後になりましたが、この度の東日本大震災により被害を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興・復旧をお祈り申し上げます。

(K.S記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.147

STAFF ● 増田 園子 浜上 尚也 安彦 善裕 中山 英二
鎌口 有秀 志渡 晃一 竹生 礼子 富家 直明
榎原 健一 杉原 佳奈 長原 利明 宮川 雄一
戸藤 成人

発行日 ● 2011年6月17日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

